

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-81986

(43) 公開日 平成8年(1996)3月26日

(51) Int.Cl.<sup>°</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

E 0 3 C 1/06

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平8-215708

(22) 出願日 平成6年(1994)9月9日

(71) 出願人 000141451

株式会社喜多村合金製作所

岐阜県山県郡美山町富永866番地

(72) 発明者 杉島 公彦

岐阜県加茂郡富加町高知字稻荷641番地

株式会社喜多村合金製作所内

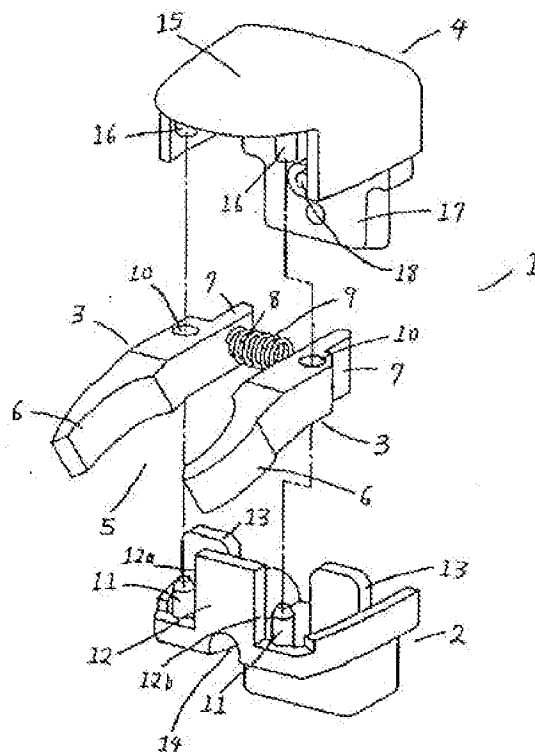
(54) 【発明の名称】 シャワーハンガー

(57) 【要約】

【目的】 シャワーヘッドをシャワーハンガーに容易に支持したり抜き出せるようにする。

【構成】 シャワーヘッドを支持する係止部を先端に有した対のアームと、両アームの間に挟持したスプリングと、両アームの後端部を上下から挟着するカバー部材及び底板を備え、前記両アームは前記スプリングの弾性に抗して左右へ回転可能にした。

【効果】 シャワーヘッドをシャワーハンガーの前方から平行方向へ移動させるだけの簡単な操作でシャワーヘッドを支持したり抜き出すことができ、使い勝手が良好である。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 シャワーヘッドを支持する係止部を先端に有した対のアームと、両アームの間に挟持したスプリングと、両アームの後端部を上下から挟着するカバー部材及び底板を備え、前記両アームは前記スプリングの弾性に抗して左右へ回転可能にしたことを特徴とするシャワーハンガー。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、浴室等の壁面にシャワーヘッドを掛けて支持させるシャワーハンガーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のシャワーハンガーは図5に示すように、シャワーヘッド25の把持部26がシャワーハンガー27の挿孔28に出し入れ自在に支持されており、シャワーヘッド25をシャワーハンガー27に支持した状態で使用したり、シャワーヘッド25をシャワーハンガー27から上方に持ち上げて抜き出したのちに使用したりしていた。

【0003】上記のものにあつてはシャワーヘッドを正面から平行方向に移動させてシャワーハンガーに支持することはできないため、シャワーヘッドをシャワーハンガーに支持する場合も抜き出す場合も必ずシャワーヘッドの上下方向への移動が必要となり操作性が悪い。シャワーハンガーが浴室の高い位置に固定されている場合は手が届かないこともあり、使い勝手の悪いものであった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明が解決しようとする課題は、シャワーヘッドをシャワーハンガーに容易に支持したり抜き出せるようにすることである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために本発明が講じた技術的手段は、シャワーヘッドを支持する係止部を先端に有した対のアームと、両アームの間に挟持したスプリングと、両アーム後端部を上下から挟着するカバー部材及び底板を備え、前記両アームは前記スプリングの弾性に抗して左右へ回転可能にしたものである。

【0006】

【作用】シャワーハンガーの両アームはシャワーヘッドを支持したり抜き出す際にシャワーヘッドに押圧されるとスプリングの弾性に抗して左右へ回転するので、シャワーヘッドの平行方向への移動のみでシャワーホルダーへの支持及び抜き出しが可能である。

【0007】

【実施例】以下、本発明のシャワーハンガーを詳細に説明する。本発明のシャワーハンガー1は図1の分解斜視図に示すように、底板2と一对のアーム3、3とカバー

部材4が一体的に組み付けられるものである。

【0008】前記一对のアーム3、3は、先端側に互いに向かい合わせシャワーヘッドAを開口部5に挿通して支持するため弓形湾曲状にした係止部6、6を有すると共に、後端側に突出して形成した脚片7、7の内側面に突起8、8を形成し、互いに向き合う両突起8、8の間に両脚片7、7を離反方向へ作用する弾性部材としてスプリング9を介在させ、前記係止部6、6と脚片7、7の間には上下方向に貫通した挿孔10、10を穿設している。

【0009】前記底板2は前記アーム3、3の挿孔10、10と嵌合する対の支軸11、11を間隔をおいて形成し、該支軸11、11の間に前板12を垂直方向に立設し、該前板12の左右両端は前記アーム3、3の内側への回転を防止するためのストッパー12a、12bとし、この前板12よりやや後方には間隔をおいて一对の支持板13、13が前板12と略同一の高さで立設し、前記前板12の下部から底板2の後部端面にかけて第1ビス挿通孔14を穿設している。

【0010】前記カバー部材4は前面及び下部を開口した形状で、天上部15から下方に向けて前記アーム3、3の挿孔10、10に挿入する対のピン16、16を間隔をおいて形成し、背板部17には前記底板2の第1ビス挿通孔14と向合う第2ビス挿通孔18を穿設している。

【0011】今、シャワーハンガー1を組立てるには底板2の各支軸11、11にアーム3、3の挿孔10、10を上から嵌合し、アーム3、3の脚片7、7は該両脚片7、7の各突起8、8の間で支持されたスプリング9と左右両側の支持板13、13の間でそれぞれ弾力的に挟持されるようにする。次にアーム3、3の上部からカバー部材4を覆い、該カバー部材4の各ピン16、16をアーム3、3の挿孔10、10に挿入し、上部から強く押さえ付ければカバー部材4と底板2は強固に嵌合する。

【0012】このように組立てられたシャワーハンガー1は別に設けたビス（図示省略）を底板2の第1ビス挿通孔14及びカバー部材4の第2ビス挿通孔18に挿通して浴室の壁面Bに図2のように固定すればよい。

【0013】上記シャワーハンガー1にシャワーヘッドAを支持するには図3に示すように、シャワーハンガー1の前方からシャワーヘッドAを平行方向へ移動すれば、シャワーヘッドAが各アーム3、3の係止部6、6を押圧し、該係止部6、6は突起8、8の間で弾力的に支持されているスプリング9の付勢力に抗して支軸11、11を中心に離反する方向に回転するので開口部5が広げられ、図4に示すようにシャワーヘッドAが開口部5に収容されると、スプリング9は各アーム3、3の脚片7、7を離反方向へ作用し、アーム3、3は支軸11、11を中心にして先端の両係止部6、6が互いに接

3

近して該両係止部6、6によりシャワーヘッドAを支持する。

【0014】次にシャワーヘッドAをシャワーハンガー1から抜き出す場合はシャワーヘッドAをシャワーハンガー1から前方の平行方向へ移動すれば、前述のシャワーヘッドAを支持する場合と同様に、各アーム3、3の両係止部6、6が離反する方向に回動して開口部5が広げられ、容易に抜き出すことができる。

【0015】

【発明の効果】この発明は上記の構成であるから、次の利点を有する。

(1) シャワーハンガーはシャワーヘッドを支持するための両アームがスプリングの弾性に抗して左右へ回転可能であるので、シャワーヘッドをシャワーハンガーの前方から平行方向へ移動させるだけの簡単な操作でシャワーヘッドを支持したり抜き出すことができ、使い勝手が良好である。

(2) 従来のようにシャワーヘッドをシャワーハンガーに支持したり抜き出すために、わざわざシャワーヘッド

4

を上下方向に移動させる必要がなく、背の低い者でも容易に使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】シャワーハンガーの分解斜視図である。

【図2】シャワーハンガーの平衡断面図である。

【図3】シャワーハンガーのアームが回転した状態の平衡断面図である。

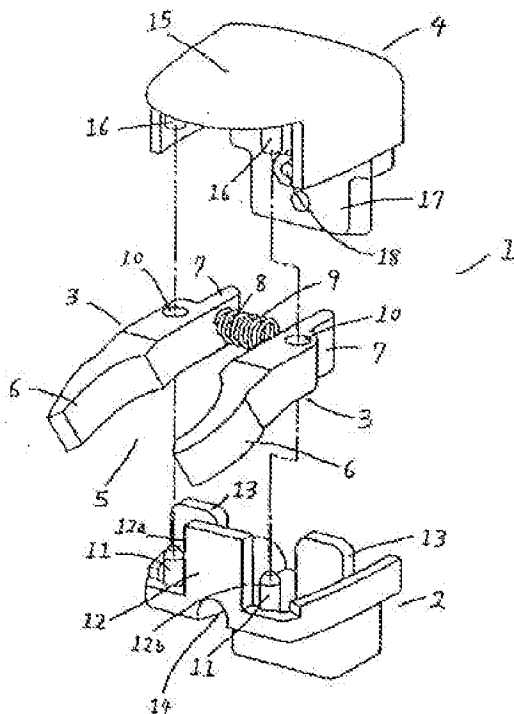
【図4】シャワーハンガーにシャワーヘッドを支持した状態の平衡断面図である。

【図5】従来技術の説明図である。

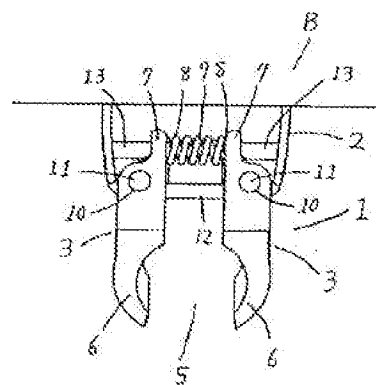
【符号の説明】

- 1 シャワーハンガー
- 2 底板
- 3 アーム
- 4 カバー部材
- 6 係止部
- 9 スプリング
- A シャワーヘッド

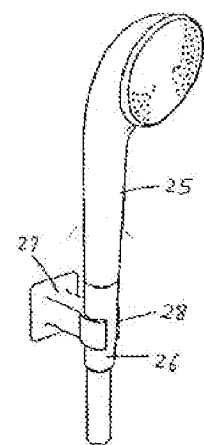
【図1】



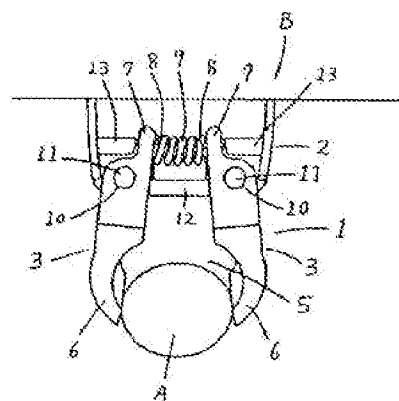
【図2】



【図5】



【図3】



【図4】

